



緩和ケアチームメンバー

村田 理佳子 高橋 典哉 鈴木 温 古澤 優子 齋藤 香菜 吉田ひろ子

当院での緩和ケアチームの取り組みについてご紹介いたします。チームの活動目標は、患者さんやご家族の身体や心のつらさを少しでも和らげ、生活の質を高められるように支援することです。身体症状・精神症状の担当医師、専従看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなどの多職種でチームは、構成されています。主治医や担当看護師からの依頼のもとコンサルテーション型で支援しております。入院されている患者さんのチームラウンド（回診）を毎週行い、患者さんやご家族がお困りの事について多職種によるカンファレンスで話し合います。その内容をもとに主治医や担当看護師と密接に連携し治療に当たっております。今後ともよろしくお願い致します。

緩和ケア科長 鈴木 温

薬剤師 高橋 典哉

緩和ケアチームのご紹介

専従看護師の主な役割は、患者さんやご家族の思いを聴き、状況を判断し、多職種と連携して苦痛緩和を目指したケアを提供することです。更に、患者さんやご家族と関わるスタッフの悩みに寄り添うことも、大切な役割であると感じています。実は専従としてまだ数ヶ月の駆け出し緩和ケアナースです。これまで携わった乳がん看護の経験を活かし、私ならではの「緩和ケア」が提供できたらと考えています。診断、治療、再発、そして人生の最終段階へ。病気と共に生きる患者さんやご家族に、緩和ケアチームの一員として医師、メディカルスタッフ、連携機関の皆様力を借りながら「この人たちに会えて良かった」と思っていただけチームを目指していきたいと思っています。

緩和ケアチーム専従看護師
乳がん看護認定看護師 古澤 優子

緩和ケアチームにおける管理栄養士の主な役割は、患者さんの食事内容を調整し、栄養管理をすることです。食欲不振、腹部膨満感等で、食事が思うように食べられない患者さんは少なくありません。平成25年より、がん患者さん対象の「結っこ食」を立ち上げました。入院中のがん患者さんへのアンケート結果より、好む料理（麺や寿司、お茶漬け、酢の物やサラダ、果物等）を取り入れ、昼食に提供しています。量は普通食の半分で、「全部食べることができた」と満足感を得られるようです。目で見て楽しめるように調理師が器や盛付を工夫しています。がん患者さんにとって、食事が「負担」ではなく「楽しみ」であり続けるために、今後も支援していきます。

主任管理栄養士 齋藤 香菜

痛みをケアしていく上で、痛み止めをはじめとする薬の使用は非常に重要となります。

薬剤師は患者さんに使用される薬を通じて、薬の服薬説明（飲み方、飲むタイミング、使い方など）、薬を使用する目的、薬の飲み合わせ（他の薬を服用している際に効果が強くなったり弱くなったりしないかの確認）、副作用モニタリング（薬を服用したことで望まない症状が起きていないかの確認）、副作用が起きた場合の対策等を医師へ提案し、安全な薬物療法を提供するなど患者さんにとって苦痛のない日常が過ごせるように関わっています。

痛み止めを使用しても痛みが良くならない、服用することで具合が悪くなる、服用している薬のことで相談したいことなどありましたら、遠慮なく薬剤師に相談してください。

結っこ食（チラシの日）

